

3-5 東洋日本美術史

研究・教育活動の概要と特色

東洋日本美術史専攻分野は、大正12年（1923）5月に設置された文化史学第二講座をその前身とし、法文学部創立以来の長い伝統を有している。その間、多くの人材が輩出し、特に全国の美術館・博物館で学芸員として活躍する卒業生の多いことが特筆される。

現在の二名の教員はいずれも仏教美術を専門とする。この点は諸大学に比して本専攻分野を特色づけるものだ。1996年度以来、本専攻分野は科学研究費基盤研究（A）を受給し、東北地方を中心とする仏教美術調査を継続している。その間、基礎データ及び画像資料の蓄積に努め、中尊寺金色堂諸像の調査などで大きな成果をあげてきた。

研究面ではこのように仏教美術研究に大きな特色があるが、一方、教育においては、分野・時代を狭めるのではなく、柔軟な視野に立ち、幅広い知識を求めることができる人材の育成に務めている。また、美術史の基礎的な方法である作品観察の技術を自分のものとしてできるよう、多くの作品を入念に見ることを指導している。科研費の調査には大学院生も主力として参加し、実作品に触れる有効な機会を得ている。近年は、中国や韓国など東アジアの各地において、作品調査をおこなう機会も多い。

研究室は夜を徹して学ぶ学生のために開放されており、学部学生を大学院生が指導するという光景も日常的なものとなっている。

I 組織

1 教員数（2013年9月末現在）

教授：2

准教授：0

講師：0

助教：1（助手）

教授：泉武夫、長岡龍作

2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
10	0	4	8	1

3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	3	3	2
10	2	2	1
11	6	1	1
12	1	3	1(柴橋)
13	0	0	0
計	12	9	5

*2013年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	0	1	1
10	1	0	1
11	1	0	1
12	0	0	0
13	0	1	1
計	2	2	4

*2013年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

畠山浩一、2009年度、岩佐又兵衛と近世初期風俗画に関する研究、泉武夫（主査）・尾崎彰宏・長岡龍作

竹浪遠、2010年度、唐宋変革期における山水画の主題に関する研究、泉武夫（主査）・佐竹保子・尾崎彰宏・長岡龍作・芳賀京子

塚本暦充、2011年度、北宋三館秘閣における文物の収集・公開活動と「北宋絵画史」の成立、泉武夫（主査）・尾崎彰宏・長岡龍作・大野晃嗣・芳賀京子

須藤弘敏、2013年度、法華経写経とその荘嚴、泉武夫（主査）・尾崎彰宏・長岡龍作

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
08	2	2	1	1	6
09	1	2	1	3	7
10	1	2	0	2	5
11	0	2	0	0	2
12	2	0	3	0	5
計	6	8	5	6	25

*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	1	8	0	9
10	0	1	8	0	9
11	0	0	1	0	1
12	2	1	7	0	10
13	0	0	1	1	2
計	2	3	25	1	31

*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

海野啓之、平安時代後期から鎌倉時代における仏菩薩像光背に関する研究、鹿島美術研究、年報26号別冊、392-403頁、2009年11月

海野啓之、仏像光背と祈りの構造—平安後期「飛天光」と平等院鳳凰堂、美術史学、30、87-116頁、2010年3月

伊藤久美、「明恵上人樹上坐禅像」に関する一考察—型と主題の再検討を中心に—、美術史、第175冊、(2013年10月発行)

坂本明子、佐賀県立名護屋城博物館蔵「肥前名護屋城図屏風」の研究、鹿島美術研究、年報26号別冊、436-446頁、2009年11月

坂本明子、十六世紀の日本における地図と都市図、都市を描く—東西文化にみる

- 地図と景観図、159-210 頁、2010 年 3 月
- 坂本明子、豊臣秀吉像にみる伝統の継承と創意について、論集・東洋日本美術史と現場- 見つめる・守る・伝える- 、283- 295 頁、2012 年 5 月、竹林舎
- 柴橋大典、定家詠十二ヶ月和歌花鳥図の展開における探幽図像の意義について- 和歌論を背景として- 、美術史学、33、45- 68 頁、2012 年 3 月
- 高橋沙矢佳、金剛峯寺蔵八大童子像について- 一像とそれをめぐる営み、仏教芸術、41-64 頁、2010 年 7 月
- 高橋沙矢佳、静岡・願成就院の諸像について- 鎌倉時代初期の武士の信仰と造像 - 、論集・東洋日本美術史と現場- 見つめる・守る・伝える- 、155- 169 頁、2012 年 5 月、竹林舎
- 竹浪遠、(伝)李成「喬松平遠図」(澄懷堂美術館)について- 唐代樹石画との関係を中心に、国華、1369、5-22 頁、2009 年 11 月
- 竹浪遠、北宋における李成の評価とその文人画家像形成について- 子孫・鑑賞者・李郭系画家との関わりから、古文化研究、9、45-76 頁、2010 年 3 月
- 塚本麻衣子、唐招提寺金堂諸像の機能と構成に関する研究、鹿島美術研究、年報 27 号別冊、2010 年 11 月
- 塚本鷹充、高麗・朝鮮時代初期の宮廷コレクション、アジア遊学、120、16-27 頁、2009 年 3 月
- 中村里那、宗達筆「舞楽図屏風」考- 醍醐寺清瀧宮および朝廷との関わりを中心に、美術史学、31/32 (合併号)、29-54 頁、2011 年 3 月
- 濱田恒志、東大寺法華堂天平期諸像の研究- 尊像構成と機能について- 、仏教芸術、302、33-52 頁、2009 年 1 月
- 濱田恒志、東大寺法華堂執金剛神像をめぐって- 後戸安置と霊像化- 、美術史学、29、123-142 頁、2009 年 3 月
- 濱田恒志、東大寺法華堂不空羂索観音像と『華嚴経』、仏教芸術、322、33- 52 頁、2012 年 5 月
- 濱田恒志、広島・善根寺収蔵庫諸像について- 造形の特徴と制作年代- 、美術史学、35、(2013 年 3 月発行予定)
- 原浩史、東寺講堂諸像と『金剛頂経』、美術史、166、358-375 頁、2009 年 3 月
- 原浩史、興福寺講堂不空羂索観音菩薩像の造立と南円堂移座- 先考先妣の為の造像と像のその後、「奉為の造像」研究、28-47 頁、2010 年 3 月
- 原浩史、古代の講堂に安置された仏像に関する研究、鹿島美術研究、年報 27 号別冊、2010 年 11 月

原浩史、興福寺蔵旧山田寺仏頭再考- 当初の安置堂宇と尊名の再検討を中心に-、
仏教芸術、322、9- 32 頁、2012 年 5 月

原浩史、東寺講堂五大明王像の図像的典拠- 御筆本仁王経五方諸尊図との比較を
通して-、津田徹英編、仏教美術論集 2 図像学 I イメージの成立と伝承（密
教・垂迹）、169- 192 頁、2012 年 5 月、竹林舎

深沢麻亜沙、浄瑠璃寺薬師如来像と平安後期の南山城の宗教空間、美術史学、33、
69- 90 頁、2012 年 3 月

望月望、藤原京薬師寺本尊の造立年、美術史学、31/32（合併号）、13-28 頁、2011
年 3 月

(2) 口頭発表

伊藤久美、明恵上人樹上坐禅像の型と制作背景、美術史学会全国大会、2012 年 5
月 7 日

柴橋大典、尾形乾山「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図角皿」に関する一考察、美術史学会
全国大会、2009 年 5 月 24 日

塚本麻衣子、唐招提寺金堂三尊像の宗教的意味について- 現世の祈りと造形、JAWS、
2012 年 8 月 21 日

原浩史、興福寺講堂不空羼索観音菩薩像の造立と南円堂移座、彫刻史研究会、2010
年 7 月 17 日

李銀広、敦煌莫高窟第 285 窟南壁の構造とその宗教的機能、国際東方学者会議、2012
年 5 月

3 大学院生・学部生の受賞状況

原浩史、第 8 回美術史学会論文賞（2010 年）

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

1、2012 年度、大学院、東国大学、韓国

5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	1	1	2
10	2	0	2
11	0	2	2
12	0	1	1
13	0	0	0
計	3	4	7

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	1	0	1
12	0	0	0
13	0	0	0
計	1	0	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

井上大樹 文化庁文化財調査技官 2009年度
海野啓之 東北大学文学部助手 2010年度
小野朋子 福島県立美術館学芸員 2012年度
柴橋大典 サントリー美術館学芸員 2012年度
濱田恒志 三原市経済部文化観光課学芸員 2013年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員1名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『美術史学』 年刊 (美学・西洋美術史専攻分野と共同発刊)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

なし

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

修学会 (美術史研究会)

2009年度 4月23日、5月19日、6月5日、6月9日、8月7日、
9月15日、11月13日、12月4日

2010年度 4月28日、7月13日、7月20日、7月25日、8月25日、
9月6日、3月10日

2011年度 1月19日

2012年度 4月24日、4月27日、6月7日、7月27日

2013年度 5月21日

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野の過去5年間の活動には特記されるべき点はいくつかある。

第一には、2006年度から開始された基盤研究(A)「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に」(研究代表者有賀祥隆)を継承するかたちで、2011年度から基盤研究(A)「生身と靈験—宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」が開始されたことである。本研究のメンバーが主導することによって近年関心の高まりを見せている仏像の宗教的意味を、広範囲な仏像調査をおこないながらより精緻に解明しようとするこの研究は、今後の仏教美術研究にとって重要な成果を生むものとして期待される。

第二には、博士課程に在籍している大学院生が、継続的に学芸員として採用されていることである。2012年度に二名、2013年度に一名が学芸員として採用され、また2010年度には期限付きながら一名が助手として採用された。これは、院生それぞれの努力の賜物であると同時に、本専攻分野の教育の成果が社会的にも認知されたものとして理解したいできごとである。その後も、全国大会で注目される発表をおこなう者が続いており、人材は継続的に育っているといえる。

第三には、2009年度から文学研究科に歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成課程が新設され、当専攻の大学院生もキュレーター養成コースに登録し、それぞれ独自の計

画で作品の調査研究を行う活動もスタートした。大学院生の自主性を重視し、しかも予算の手当も行うこれまでにない試みであり、すでに日本国内のみならず海外での調査も開始されている。これらは将来の学芸員の資質を養成する上で、貴重な体験となるものと期待される。

以上の通り、過去5年間の本専攻分野の活動には評価されるべき点はあると考えている。一方、各地の美術館・博物館に眼を向ければ、指定管理者制度が導入され、学芸員採用の形式も変化しつつあるなど、博物館行政は今大きな転機を迎えている。これらの機関に多くの人材を提供してきた本専攻分野には、これからの博物館を担う新たな人材を育ててゆく責務があると考え。この点を今後の方向として示して総括としたい。

Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

長岡龍作「古代日本の「生身」観と造像」 『美術史学』29号 35-60頁 2009年3月

長岡龍作「仏教における霊験—仏が感応する場と表象」 『死生学研究』第12号 230-266頁 東京大学大学院人文社会系研究科 2009年10月

長岡龍作「高清水善光寺阿弥陀如来像と中世の生身観」 『仏教芸術』307号 51-69頁 2009年11月

長岡龍作「みちのく・肖像の風景」 三浦秀一編 『東北人の自画像』所収 1-39頁 東北大学出版会 2010年2月

長岡龍作「「奉為の造像」論—主体・祈願・表現」 『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「奉為の造像」研究』 4-27頁 2010年3月

長岡龍作「平泉の美術と仏教思想」 『兵たちの時代3 兵たちの極楽浄土』 66-96頁 高志書院 2010年6月

Nagaoka Ryusaku "Buddhist Spiritual Manifestations: The Places and Forms of the Buddha's Spiritual Resonance", *Bulletin of Death and Life Studies*, Vol. 6, pp.17-59, The University of Tokyo, 2010

長岡龍作「仏像から見る古代日本の仏教」 『新アジア仏教史 第13巻 日本仏教の定着』 331-363頁 佼成出版社 2010年11月

長岡龍作「霊験と観音像」 『美術フォーラム21』第22号 30-36頁 2010年11月

長岡龍作「金剛寺蔵 木造地藏菩薩半跏像」 『國華』第1393号 46-47頁 2011

年 11 月

長岡龍作「兜率天往生の思想と表象」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「兜率天往生の思想とのかたち」』、50-70 頁、2011 年 4 月

長岡龍作「宮城の海浜風景—その宗教的意味について考える」 『今を生きる—東日本大震災から明日へ！ 復興と再生への提言— 1. 人間として』 33-44 頁 東北大学出版会 2012 年 3 月

長岡龍作「行為と感応の場としての「空間」—表象の読み方を考える」 『建築遺産保存と再生の思考—災害・空間・歴史』 263-284 頁 東北大学出版会 2012 年 3 月

長岡龍作「救済の場と造形」 『日本思想史講座 1—古代』 289-322 頁 ペリカン社 2012 年 4 月

長岡龍作「高橋由一の思想と絵画」 『論集・東洋日本美術史と現場—見つめる・守る・伝える』 192-208 頁 竹林舎 2012 年 5 月

長岡龍作「仁寿舍利塔の起塔地とその意義」 『科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書「隋唐時代の仏舎利信仰と荘嚴に関する総合的調査研究」』 (研究代表者加島勝)、28-41 頁、2012 年 3 月

長岡龍作「蓮華蔵世界と観音」 『ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集 1 0 華嚴文化の潮流』 41-57 頁 2012 年 12 月

長岡龍作「隋仁寿舍利塔と青州勝福寺址」 『中国中世仏教石刻の研究』 154-181 頁 勉誠出版 2013 年 3 月

泉武夫「特異な星辰神の図像とその象徴性」、『佛教藝術』309 号、13-39 頁、2010 年 3 月

泉武夫「天皇の仏画—『門葉記』にみる三壇御修法の本尊制作」、『科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書「奉為の造像」研究』 (研究代表者長岡龍作)、48-64 頁、2010 年 3 月

泉武夫「定印観音の一遺例—常照皇寺本の紹介」、泉武夫、『国華』1375 号、7-17 頁、2010 年 5 月

泉武夫「黒漆八角宝珠箱の金銀泥絵像とその意味」、『佛教藝術』312 号、13-46 頁、2010 年 9 月

泉武夫「兜率天弥勒と兜率天宮図の系譜」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「兜率天往生の思想とのかたち」』、3-49 頁、2011 年 4 月

泉武夫「行道観音図像をめぐる」、『仏教美術論集 2 図像学 I—イメージの成立と伝承 (密教・垂迹)』、83-99 頁、竹林舎、2012 年 5 月

- 泉武夫「素材への視線- 仏画の絵絹」、『学叢』34号、201-215頁、2012年5月
- 泉武夫「展覧会をつくること みせること- 王朝の仏画と儀礼展の顛末-」、『論集・東洋日本美術史と現場- 見つめる・守る・伝える-』、403-416頁、竹林舎、2012年5月
- 泉武夫「神徳寺石函の図様表現と特色」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究」』（研究代表者加島勝）、42-48頁、2012年3月
- 泉武夫「中尊寺蔵金字経見返絵の絵師分担について」、『佛教藝術』329号、45-82頁、2013年7月
- 海野啓之「弥勒彫像荘厳具にみる平安後期・鎌倉時代の弥勒信仰-醍醐寺三宝院弥勒菩薩像光背における空間的位相」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「兜率天往生の思想とそのかたち」』、71-96頁、2011年4月
- 海野啓之「「笈分／負別如来」考- 快慶伝承の一例として-」、『論集・東洋日本美術史と現場- 見つめる・守る・伝える-』、254- 271頁、竹林舎、2012年5月

1- 2 著書・編著

- 長岡龍作（責任編集）『日本美術全集2 法隆寺と奈良の寺院』 小学館 2012年12月
- 泉武夫編著『日本美術史ハンドブック』（共編著）、新書館、2009年3月
- 泉武夫『週間朝日百科 国宝の美』通巻20号（絵画7 仏教絵画3）朝日新聞出版 2009年12月（監修、共著）
- 泉武夫『仏画の尊容表現』、中央公論美術出版、2010年10月
- 泉武夫『竹を吹く人々- 描かれた尺八奏者の歴史と系譜』、東北大学出版会、2013年3月

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 長岡龍作「法華堂の仏像」 『別冊太陽 東大寺』 平凡社 2010年10月
- 長岡龍作「上原昭一先生の思い出」 『美術史学』第31/32号 183-184頁 2011年3月
- 長岡龍作「金色堂に込められた清衡の願い」 『週刊 日本の世界遺産13 平泉』20-21頁 朝日新聞社出版 2012年5月
- 泉武夫「第二一回國華賞奨励賞選評」、『國華』1370号、2009年12月

泉武夫「中国仏教の聖地 五台山と平泉」 『週刊 日本の世界遺産 13 平泉』
32-33 頁 朝日新聞社出版 2012 年 5 月

1- 4 口頭発表

長岡龍作「隋仁寿舍利塔と青州勝福寺址」 国際シンポジウム「中国北朝後期から隋唐期の山東仏教石刻と東アジア」 明治大学博物館教室 2009 年 5 月 16 日

長岡龍作「山水と表象—その宗教的機能を中心に」 美学会例会 成城大学 2009 年 7 月 11 日

長岡龍作「日本美術にみる自然表現と宗教観」 訪問講座「日本とアジア」 ロシア・ノボシビルスク大学 2009 年 11 月 19 日

長岡龍作「仏像と風景—仏への祈りの場とは何か」 特別公開講座「古代と現代を結ぶ文化遺産としての風景」 京都嵯峨芸術大学 2010 年 1 月 16 日

長岡龍作「山水と仏像—仏教的実践の場と表象の機能」 コロンビア大学国際シンポジウム「Image and Objects in Japanese Buddhist Practice」 2010 年 10 月 8 日

長岡龍作「東北地方の仏教文化と慈恩寺」 慈恩寺シンポジウム 2010 年 12 月 11 日

長岡龍作「行為と感応の場としての空間—表象の読み方を考える」 空間史学研究會シンポジウム「空間を記述せよ—方法・史料・表象をめぐって」 2011 年 9 月 7 日

長岡龍作 美学会全国大会シンポジウム「「浄罪の場所」表象の東西—この世・あの世または第三の場所」司会 2011 年 10 月 16 日

長岡龍作「仙台 像と風景」 特別展「仏のかたち 人のすがた—仙台ゆかりの仏像と肖像彫刻—」 記念講演会 仙台市博物館 2011 年 11 月 5 日

長岡龍作「滅罪の場としての庭園—平等院の意味を再考する」 美術史学会東支部大会 2011 年 12 月 4 日

長岡龍作「蓮華蔵世界と観音—習合思想を手がかりに」 ザ・グレートブッダ・シンポジウム「華嚴文化の潮流」 東大寺 2011 年 12 月 11 日

長岡龍作「日本美術史研究者にとっての河口コレクション」 東北大学東北アジア研究センターシンポジウム「聖典とチベット—仏のことばを求めて」 2012 年 2 月 19 日

Nagaoka Ryusaku "Buddhist Soteriology and The Functions of Figurative Art", 33rd

Congress of the International Committee of the History of Art, Section 3;"On Religions and their Objectivations as seen from Intercultural Perspectives", Nuremberg, 16th July 2012

長岡龍作「古代の仏教彫刻に見る祈願と表現—日韓中の比較を通して」 国際学術シンポジウム「美術文化から見る韓日」 韓国・東国大学校 2013年6月21日

泉武夫「東アジア宗教におけるイメージ・図像・象徴への美術史的アプローチ」、印度学宗教学会学術大会シンポジウム招待講演、金沢大学、2009年5月30日

泉武夫「平安後期から鎌倉前期の仏教儀礼における図像・画像の役割—可視と不可視の間で—」、国際シンポジウム「前近代の日本におけるあらたな法会・儀礼学の構築をめざして—ことば・ほとけ・図像の交響」、ロンドン大学 SOAS、2011年5月12日

泉武夫「栖雲寺の画像をめぐって」、国際シンポジウム「日本に現存するマニ教絵画の諸問題」、大和文華館、2011年6月5日

泉武夫「山林の絵画表象と仏教荘厳」、空間史学研究会シンポジウム〔空間と装飾〕、東北大学、2012年8月2日

泉武夫「仏画からみた写実技法、および絹目の問題」、鹿島美術財団美術講演会、2012年10月19日

海野啓之「仏像光背考—仏教彫刻の靈驗性と“空間史”」、第2回空間史学研究会、東北大学文学部、2011年2月15日

2 教員の受賞歴 (2009~2013年度)

無し

IV 教員による競争的資金獲得 (2009~2013年度)

(1) 科学研究費補助金

長岡龍作 (研究代表者) 2006年~2009年度 基盤研究 (B) 「「奉為の造像」研究」、2006年3,830,000円・2007年3,080,000円・2008年2,300,000円・2009年2,700,000円

長岡龍作 (研究分担者) 2007年度~2010年度、基盤研究 (B) 「兜率天往生の思想とのかたち」 2007年4,986,000円・2008年1,920,000円・2009年1,900,000円・2010年2,500,000円

長岡龍作（研究分担者）2009年度～2011年度、基盤研究（B）「隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究」、2009年度4,900,000円・2010年度3,300,000円・2011年度5,300,000円

長岡龍作（研究代表者）2010年～2012年度 基盤研究（C）「感応と表象—美術の宗教的機能に関する基礎的考察」、2010年度1,200,000円・2011年度900,000円・2012年度1,000,000円

長岡龍作（研究分担者）2011年度～ 基盤研究（A）「生身と靈驗—宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」、2011年度14,400,000円・2012年度11,600,000円

長岡龍作（研究分担者）2012年度～ 基盤研究（B）「菩薩形弥勒と浄土・現世の交通」、2012年度3,000,000円・2013年度2908303円

長岡龍作（研究分担者）2012年度～ 基盤研究（A）「仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究」、2012年度600,000円

長岡龍作（研究代表者）2013年度 基盤研究（C）「善業と記憶—美術と時間に関わる基礎的考察」2013年度1,300,000円

泉武夫（研究分担者）2006年～2009年度 基盤研究（B）「「奉為の造像」研究」、2006年3,830,000円・2007年3,080,000円・2008年2,300,000円

泉武夫（研究代表者）2007年度～2010年度、基盤研究（B）「兜率天往生の思想とのかたち」2007年4,986,000円・2008年1,920,000円・2009年1,900,000円・2010年2,500,000円

泉武夫（研究分担者）2009年度～2011年度 基盤研究（B）「隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究」、2009年度4,900,000円・2010年度3,300,000円・2011年度5,300,000円

泉武夫（研究分担者）2011年度～ 基盤研究（A）「生身と靈驗—宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」、2011年度14,400,000円・2012年度11,600,000円

泉武夫（研究代表者）2012年度～ 基盤研究（B）「菩薩形弥勒と浄土・現世の交通」、2012年度3,000,000円・2013年度2908303円

泉武夫（研究分担者）2012年度～ 基盤研究（A）「仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究」、2012年度700,000円、2013年度200,000円

海野啓之（研究代表者）2010年～2011年度 研究活動スタート支援「仏像を納める荘厳具（厨子）に関する調査研究—古代・中世の仏像観を主眼に」、2010年度1,170,000円、2011年度1,170,000円

海野啓之（研究分担者）2011年度～ 基盤研究（A）「生身と靈験—宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」、2011年度 14,400,000円

（2）その他

海野啓之（研究代表者）2011年度（～2013年10月） 平成23年度三菱財団人文科学研究助成金、「日本古代・中世における厨子と東アジア—意匠・意味・流通に関する対外交渉史的学際研究」、1,500,000円

V 教員による社会貢献（2009～2013年度）

長岡龍作

仙台市文化財保護審議会委員（2002年度～現在）

國華賞選衡委員（2011年～）

「麗しき仏像—日本人の祈りと美」 リビングカレッジ 2009 エル・パーク
仙台セミナールーム 2009年9月15日

「仏像と風景～日本人の祈りの世界～」 NHK文化センター郡山教室一日講座
2010年4月24日

「日本から見たチベット美術」 仙台市博物館「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」展講演会 2010年5月15日

キトラ古墳壁画四神特別公開記念討論会コメンテーター 文化庁・奈良文化財研究所 2010年5月30日

「仏像に出会う楽しみ」 東北大学学友会文化部講演会 2010年7月1日

「奥六郡域の薬師如来像について」 奥州市歴史講座 2010年7月31日

「奥六郡域の毘沙門天像について」 奥州市歴史講座 2010年8月28日

「「正倉院宝物」から天平を想う」 八木山市民センター主催講座 2011年2月22日

「寧波・杭州・台州—美術で旅する日本仏教の故郷」 NHK文化センター特別公開講座 2011年6月4日

「古代日本の仏像—祈りとかたち—」 智山教化センター・愛宕薬師フォーラム 2012年6月21日

「不空羂索観音の姿と役割」 東大寺学講座 2012年11月25日

「美術で旅する幕末明治の江戸・東京」 NHK文化センター特別講座（仙台） 2012年12月5日

「女性と仏教・仏像」 清泉女子大学ミニシンポジウム 2013年1月23日

「法隆寺—古代日本の祈りと美」 小学館『日本美術全集』発刊記念特別講演 2013年1月26日

「美術で旅する幕末明治の江戸・東京」 NHK文化センター特別講座（郡山） 2013年7月25日

泉武夫

宮城県文化財審議委員（2008年～）

宮城県美術館協議会委員（2008年～）

仙台市博物館協議会委員（2008年～）

國華賞選衡委員（2005年～現在）

文化庁文化審議会専門委員（2009年2月～）

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員
（2009年8月～2010年7月）

大仙市専門指導顧問（2009年～2010年）

福島県文化財審議委員（2013年～）

「日本文化の芽ばえ—京都から」、齋理講座「学問で世界一周」、2009年8月1日

「尺八野外コンサート」、東北大学市民オープンキャンパス・紅葉の賀、2009年11月3日

「仏画と古典を結ぶ」、宮城県国語教育研究会春季総会講演、仙台第三高等学校、2010年5月7日

「王朝時代の美の価値観と中尊寺経」、東北文化公開講演会、2010年7月10日

「キリスト聖像の可能性—栖雲寺蔵伝虚空蔵菩薩画像について—」、天目山栖雲寺「虚空蔵菩薩画像」お披露目会と記念講演会、2010年7月24日

「尺八コンサート」、東北大学市民オープンキャンパス・紅葉の賀、2012年11月3日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013年度）

長岡龍作

美術史学会東支部常任委員 2010年～

泉武夫

美術史学会東支部委嘱委員 2009年

美術史学会東支部常任委員 2009年～2013年

Ⅶ 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2013年度)

1 大学院授業担当

教授 長岡龍作

東洋・日本美術史特論Ⅰ・Ⅱ

東洋・日本美術史研究演習(前期)

課題研究(東洋日本美術史)

教授 泉武夫

東洋・日本美術史特論Ⅰ・Ⅱ

東洋・日本美術史研究演習Ⅱ(後期)

課題研究(東洋日本美術史)

2 学部授業担当

教授 長岡龍作

東洋・日本美術史基礎実習

東洋・日本美術史各論

東洋・日本美術史演習

東洋・日本美術史講読

東洋・日本美術史概論(第4 Semester)

教授 泉武夫

東洋・日本美術史基礎実習

東洋・日本美術史各論

東洋・日本美術史基礎講読

東洋・日本美術史概論(第3 Semester)

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講 (2008～2012年度)

長岡龍作

沖縄県立芸術大学美術工芸学部非常勤講師 2010・2012年度

放送大学宮城学習センター非常勤講師 2011 年度
泉武夫

山形大学人文学部非常勤講師 2010 年 11 月